



GAP 手法の実践例

～農薬散布時の安全対策～

農薬ラベルの記載事項を確認する

使用する前にもう一度、よく読んでおこう。



- 防除する作物は対象になっているか
- 散布量や希釈倍数を確認
- 使用時期、使用できる回数を確認

農薬のラベルに指示に従って適切な防護服を着用する



生産工程を管理する方法は、産地や取り組む皆さんそれぞれで異なります。まずは工程ごとに問題点や課題を整理し、それぞれの地域にあったGAPを作りましょう!!

お問い合わせ先

滋賀県農政水産部農業経営課 〒520-8577 滋賀県大津市京町4-1-1

TEL077-528-3891 FAX077-528-4882



この印刷物は古紙パルプを配合しています。

周辺への飛散防止に努める



ギヤツブ GAP(農業生産工程管理) 実践のすすめ

～イメージだけの安心から、確かな安全へ～



生産者

作業毎にチェックしているから、リスク対策は万全です!

使った農薬や肥料だけでなく、全作業を正確に記録し、内容を検証しています。

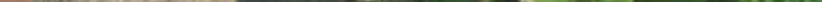
消費者
流通関係者

どうして安全なのか理由が分かった!

信頼

そうやって作られていれば、安心・安全だわ。

安心



滋賀県 農政水産部 農業経営課

GAP^{*}(農業生産工程管理)

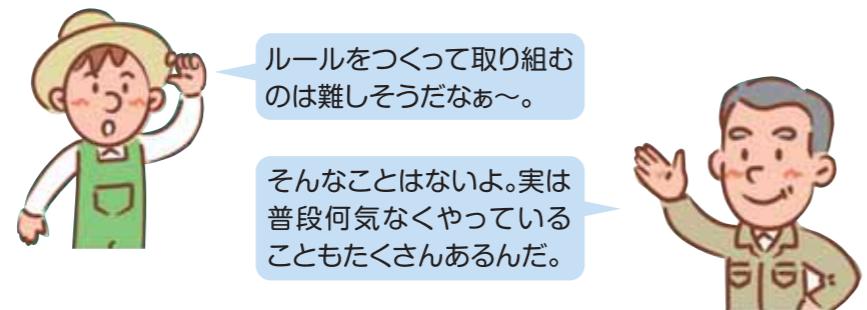
手法に取り組みましょう!

GAPって何?

農業者が、準備から出荷までの生産過程で気を付けなければならないことを整理して、危害を未然に防ぐために、ルールをつくり、それを実践・記録・評価することで、安全・安心な農産物の生産につなげていく取り組みです。

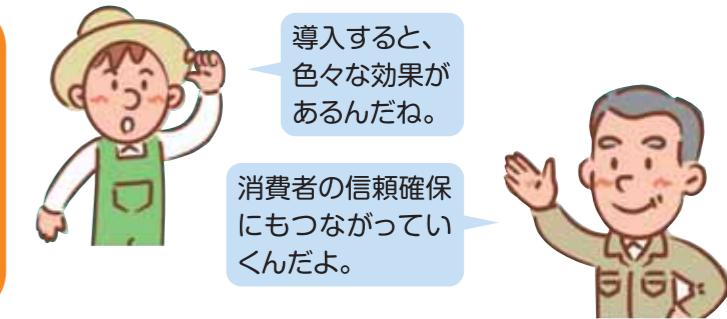
実践点検シート

- 栽培管理
- 病害虫対策
- 環境への配慮
- 土づくり
- ...
- ...



GAPを導入すると、どのような効果があるの?

農産物の安全・安心の確保
環境への負荷軽減
経営改善
生産者の健康被害防止など



なぜGAPが必要なの?

農産物の収穫後に行う検査だけでは、チェックに限界があり、より安全性を保証する取り組みが求められています。GAPに取り組み、農作業の各工程毎に実践・記録・評価を行うことで危害を未然に防ぐことができます。

今までの方法は「収穫後の検査結果にもとづく品質保証」



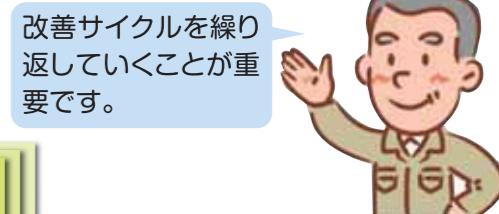
今、求められる方法は「工程管理にもとづく品質保証」



*GAPとは、Good(良い)Agricultural(農業の)Practice(実践)を省略したもので

GAPに取り組むポイント・手順は?

最初は、できるところ(特に重要なこと)から実践し、ステップアップしていきましょう。そのため、GAPの必要性について、意識を定着させることが何よりも大事です。



例えば…異物混入防止。
野菜を包装する時、たばこの吸い殻が入らないようにしたいな。そうだ!作業場から離れた場所に喫煙場を設けよう。

GAPの手順

①計画をたてる!

危害(リスク)を回避するために対策をたてましょう。

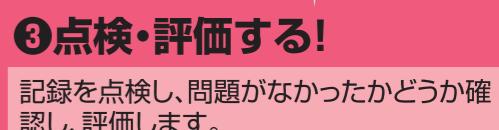


GAPの改善サイクル

今度は、髪の毛が入らないように作業場では帽子をかぶるようにしよう。点検項目を追加し、次も達成できるよう頑張るぞ!

④見直します!

改善すべき点を見直し、次回の作付けに役立てましょう。



よし、取引先からの苦情も減ったし、うまくいったぞ。でも、髪の毛が入るのも防ぎたいな。

③点検・評価する!

記録を点検し、問題がなかったかどうか確認し、評価します。

今やっている農作業を記録に残し、改善に役立てましょう!